

雨が降る中、慎重に苗を植える参加者ら＝15日、新温泉町刈田



アイガモ農法に取り組む農事組合法人「アイガモの谷口」(新温泉町刈田)の水田で15日、田植え体験イベントがあった。県内外から集まった参加者らは、雨が降りしきる悪天候の中、苦ながらの手植えを通してコメづくりの苦労を学んだ。(高増正範)

新温泉・アイガモ農法の水田 オーナー会員親子ら体験

アイガモによる無農薬栽培米への理解や自然の大切さなどを感じてもらうと毎年実施。雑草や害虫を食ったアイガモの排泄物が豊分となる自然循環型農業の取り組みは、県内全域をパビリオンに昇格した県の体験型観光事業「ひょうごフィールドパビリオン」のプログラムに選ばれている。

同法人の田んぼオーナーの会員を中心に、1～15歳の25組約90人が参加した。谷口正友代表理事(58)から、苗の植え方などを教わってからの田植えに挑戦。30分間隔に印が付けたロープの前に横一列に並び、苗を2、3本ずつ手に取って慎重に植えていった。

苗の手植え 苦労学ぶ

西宮市から家族4人で参り、どうやってできているのか、田植え後は、かも肉のパックを教えたかったと話した。1ペキュに舌鼓を打った。ほか、生き物の調査も行った。9月には湘州リ体験が予定されている。

西宮市から家族4人で参り、どうやってできているのか、田植え後は、かも肉のパックを教えたかったと話した。1ペキュに舌鼓を打った。ほか、生き物の調査も行った。9月には湘州リ体験が予定されている。

同区村岡の自営業、西村直哉さん(37)のグループは、栗村地区の伝承を中心に調査して紙芝居にまとめる予定で「栗村地区の暮らしや歴史を次の世代に継承していきたい」と力を込める。各グループの調査結果は11月の報告会で発表する。(足立七海)